

池原 昭治

第177話

さやまの今

梅宮神社の甘酒祭り

県指定の無形民俗文化財で、平安時代から続くといわれる饗宴型の酒盛り祭りで、県内でもめずらしい「甘酒祭り」が毎年2月10日、11日に上奥富の梅宮神社で行われます。10日が宵宮で、座揃式といい、平安時代の儀式を今に伝え、頭屋制を忠実に伝えています。

祭りの準備は、前年の



12月22日から始まり、翌年、1月15日に甘酒をつけ込み



(仕込み)、10日の夜の座揃式では、甘酒を一献、一献、盃を重ね、謡をあげます。

「昔は子ども達が太鼓を叩き、手桶神輿をかつぎ、村中を廻って、灯明錢を集めたもんだ」安産守護神の由来により、夜は奥富おごりといって、一晩中、火を燃やしたもんだ「ご利益には、甘酒を飲むと、一年中、風邪をひかない、奥富おごりの煙に当たると風邪をひかない、灰をいただいて帰ると妊婦が安産する」

あくる11日は大祭で、参道には露店が並び、だるま市、植木市、西方囃子、里神楽。まさに老若男女が集い、それはそれは賑やかな一日となります。神社の周辺は秩父連山、丹沢連峰に富士山を望む田園地帯で、日本の原風景ここにありです。

分かるかな？

今月の写真クイズ

写真は、今月号に掲載した写真の拡大写真です。何ページの何の写真でしょうか？



正解者の中から、抽選で5名に記念品を差し上げます。官製はがきで広報課あてにお送りください。なお、答えと一緒に広報さやまを見て感じたことなど、ご意見もお待ちしています。締切り2月26日1月号の答え



12ページ・ひとまち写真館・市民文化祭の催しの、ドングリを使った置物の写真でした。

市民の作品展

俳句

狭山市俳句連盟の選による作品を掲載します。

産土の闇をゆるがす初太鼓	赤羽 京子
北風に負けぬ少女の膝小僧	石川 則子
天辺を鳴かずしに帰る冬鴉	榎原 志津
考える像となりし寒の鯉	佐山 豊
冬枯を踏む音たてる二人かな	矢島 清
希望ある限り青春冬林檎	安田 曾太
行く年の空あり玻璃戸拭きあげて	安永 綾子

編集後記

今年も成人の日、市民会館で狭山市成人式が盛大に行われました。今年成人を迎えたのは1千704名で、昨年よりも100名ほど少なくなっていますが、式典への出席率は71.6%とわずかながら上昇しました。

当日は寒い一日となりましたが、会場はあでやかな着物姿やスーツ姿の新人の熱気と笑顔で満ちあふれていました。友との再会の喜び合う笑顔には、かつての自分の姿を思い出し、元気をいただくとともに、古き友に久しぶりに会いたくなりました。

目で見る「さやま」

- 人口と世帯(市民課) 2月1日現在。()内は前月比
住民基本台帳人口 外国人登録人口
男 78,881人(- 37人) 977人(- 13人)
女 76,687人(- 63人) 1,271人(- 3人)
合計 155,568人(- 100人) 2,248人(- 16人)
世帯 63,760世帯(±0世帯) 1,629世帯(- 17世帯)
- 1月の火災・救急件数(消防本部)
火災件数 5件(建物4件、その他1件)
救急出動件数 526件(搬送人員490人)
- 交通事故・刑法犯罪件数(狭山警察署)
交通事故 127件(人身事故21件 内死者1人、物件事故106件)
刑法犯罪 54件(侵入窃盗5件、車上狙い17件、自動車盗等2件、その他40件)
平成22年1月1日～1月15日の累計(概数)